

インスリン療法を受けていない2型糖尿病患者では 血糖自己測定せずとも悪影響なし

糖尿病患者においては、良好な血糖コントロールを維持するには、医師の指示どおりに服薬することや自己管理を継続することが大切であるといわれているが、インスリン療法を受けていない2型糖尿病患者には血糖自己測定が必要であるかについては議論されている。そこで本研究では、インスリン療法を受けていない2型糖尿病患者を対象に、血糖自己測定が血中ヘモグロビン A1c 値に及ぼす効果について検討した。

米国・ノースカロライナ州のプライマリケアの15施設においてインスリン療法を受けていない2型糖尿病患者450人を対象にランダム化比較対照試験を実施した。対象患者を①血糖自己測定を行わない群、②血糖自己測定を1日1回行う群、③血糖自己測定とフィードバックメッセージを受け取る群の3群にランダムに割り付け、52週間追跡した。その結果、52週後の平均 HbA1c 値と健康関連 QOL スコアは3群間で有意な差はみられなかった。

したがって、インスリン療法を受けていない2型糖尿病患者では、血糖自己測定を行ってなくても1年後の血糖コントロールに悪影響は及ぼさないことが示された。

出典：Journal of American Medical Association. Internal Medicine. 2017; 177(7):

920-929